



遺伝子病理・検査診断研究会

第三回 定期報告会の概要 (2018年7月14日開催)

2018年8月

2018年7月に遺伝子病理・検査診断研究会の第三回 定期報告会を開催いたしました。
当日の会の概要についてご紹介させていただきます。

■第三回 定期報告会 開催のご挨拶

ゲノム医療の拠点11施設が発表され、まもなく連携施設100施設も発表となる。この拠点施設で行われる遺伝子検査についても厚労省から指針が発表され、病理部門がその運用において重要な役割を担っていることは明らかである。

遺伝子検査は検体検査に分類され、検査の精度の担保及び検体処理に関する技術のブラッシュアップとその共有は必須である。

このような背景のもと、今回の報告会は大変タイムリーな内容となっている。研究会の活動成果をはじめ、検体の取扱規定に関する情報、肺がんの最新治療法と遺伝子検査の重要性等、最新情報を発信させていただき、施設で有効に活用いただきたいと思いますと考えている。



代表世話人 長村義之
国際医療福祉大学大学院
日本鋼管病院 病理診断科

■定期報告会の開催概要

<遺伝子検査の院内運用状況の紹介とトピックス>

講師：阿部 香織 (本会 世話人)

精度管理を中心に、院内での運用状況の紹介

講師：郡司 昌治 (本会 世話人)

ISO取得に向けた取り組み等、院内での運用状況の紹介

<多施設共同研究の概要と進捗状況>

講師：佐々木 伸也 (本会 世話人)

マクロダイセクションの有用性に関する、多施設共同研究の概要と状況に関する報告

<特別講演>クリニカルシーケンスの課題と展望

講師：武藤 学先生 (京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学 教授)

<ディスカッション>

司会：郡司 昌治 (本会 世話人)

Liquid biopsyと組織検体を用いた検査での陽性率の違いや、Friday biopsyの取り扱い、臨床への結果報告の内容と方法について、施設での実例を踏まえディスカッションを行った。

以上

※詳細内容はホームページ上の会員専用ページに掲載しております。

お問い合わせ

遺伝子病理・検査診断研究会 事務局

E-mail : jimukyoku@idenshi-byouri.com

URL : <http://idenshi-byouri.com/>

IR180217-01